

成果報告書

(令和3年度 地域文化倶楽部創設支援事業)

特定非営利活動法人 日本地域部活動文化部推進本部

所在地	静岡県掛川市	設立年	2021年
運営主体	NPO法人 日本地域部活動文化部推進本部		
事業目標	<p>企画提案書記載の目標</p> <p>●目標1 【課題1】 個別最適かつ協働的な学びを得られる活動実現のための仕組み (→ 未来を見据えた本質的な学びを実現できる部活動の在り方の追究) ◇課題1に対し、 地域部活・掛川未来創造部Paletteでの3年間の活動の成果をベースに、新たに創部する高校生の地域部活動も含め、発展的な構築を目指す。 [具体的な成果目標] ・在り方を示す企画や体制を明確に可視化。全国発信事業で研究成果を発表。</p> <p>●目標2 【課題2】 活動を支える担当スタッフ人員確保とオンライン・オフラインを融合した仕組みの構築、活動を補完するオンライン・オンデマンド配信コンテンツの開発制作 ◇課題2に対し、人材の確保とオンライン・オンデマンドでの配信コンテンツの企画開発制作の実施。活動拠点(Palette)に向け、NPO本部(当法人)が支援を実践。 [具体的な成果目標] ・人材 … プロデューサー、顧問・副顧問、アドバイザーなどの人選と体制確立 ・教材 … オンラインおよびオンデマンド配信用の教材(部活動の在り方、行動指針、未来の社会像など、最低限10本以上を制作)を実践で活用し検証を行う)</p> <p>●目標3 【課題3】 地域と共に持続可能な活動を展開可能な資金基盤の獲得 (→ 本質的な学びへの地域の経済界や財界など各界への理解促進と拠点拡大に向けた資金調達のための体制づくり) ◇課題3に対し、全国および拠点地域 それぞれからの企業協賛の交渉・獲得。 [具体的な成果目標] ・全国規模 … 全国展開している大企業や企業グループからの大規模協賛獲得 ・地域単位 … 部活動拠点を有する地域の地場産業を中心に協賛獲得 ※コロナ禍で地域経済が疲弊化しているため、すぐに目に見えた大きな成果が得られるか不明瞭なものの、目標は明確に定めて体制づくりに着手。</p>		
きっかけ	<p>2018~2020年まで掛川市美感ホールでPaletteの活動を継続してきたが、Paletteだけが特別な主催団体の企画運営で実施できたとしても、それを全国の様々な市町で展開できるかという難しい点が多いと認識している。 会場、人員、資金など様々な観点から持続可能な形として、小規模、公共施設の会議室でも運営可能な形態が展開の可能性が高いと考えた。その小規模な部活動が、部員数が少なく、部費から得られる収入も少ない中、活動を展開していくためには、人材も資金も集められる特別な主催団体が実施するのではなく、本部が講師の招聘、オンラインやオンデマンドの教材提供、全国をつないで発信や交流が可能な場の提供などを行い、各部活動の拠点は、最低限の会場費と見守りスタッフのみの体制で実施していく方式が望ましいのではないかと考えに至った。そのことが、日本地域部活動文化部推進本部を設立するに至った経緯である。</p>		

<p>団体・組織等の連携</p>	<p>Ppccaの地域部活動では、教育課程との関連を重視し、学校教育が目指す学びを部活動を通して補完することを目的に活動している。</p> <p>[部員が通う学校] 部員が通っている学校には、2年生と1年生は毎年2月頃、3年生は秋頃に、それぞれ指導要録に記載するための参考情報として、一人一枚、A4・1枚のレポートを学校長宛てに提出している。ただし、3年生の場合は、学校ごとの様式があるため、それにあわせて提出している。このレポートには、1年間の活動を通して一人一人の変容や成長の様子を中心に、表現・制作・運営など、どういった役割を担当したか、どのような場でどんな発表をしたかなどをまとめて提出している。</p> <p>[教育委員会] 教育委員会とは、特に部員募集チラシを6年生が卒業前の小学校や、入学直後の中学校に配布する際、市内の学校への一斉配布に協力を依頼。 ※2022年度より地域クラブ公認制度に申請、公認地域クラブの一つとして募集チラシ等の案内配布を依頼。</p> <p>[市文化振興担当部課] 主に地域芸術祭など関連事業に地域部活が参画する際に連携。 そのほか、市が取り組んでいる課題や町の情報などをヒヤリングする際も担当部局との間のつながりを依頼。</p> <p>[県(公益財団)] 県の公益財団が主催する機関(アーツカウンスルしずおか)から、年間を通じた大きな補助金と伴奏支援を受ける。 県からの助成は2021年度までで終了。次年度からは地域の企業(地場産業など)によって支えられる体制が望ましい。(現在、交渉進展中)</p> <p>[公共施設・指定管理者] Paletteの拠点(掛川市美感ホール)の指定管理者(株式会社)が、Paletteに共催という形で使用料を約半額程度の金額で提供。(2021年度から共催)</p>
<p>活動場所</p>	<p>【NPO本部(Pocca)】 本部1F 多目的スタジオ・オフィス(掛川市家代)</p> <p>【部活動拠点(Palette)】 掛川市美感ホール(ホール、会議室、舞台袖、ロビー等を使用)</p>
<p>活動概要</p>	<p>既存の学校部活動では提供が難しい、子どもたちのニーズに沿った新たな文化系の部活動を、学校の枠を越える形で地域に新設する事業。</p> <p>「学びのきっかけの機会提供」と「人材・資金の持続可能な確保」の両面から、NPO本部(Pocca)と部活動拠点(Palette)をオンラインで接続し、拠点は安全管理スタッフ若干名と会場費とスタッフ人件費を基本に確保できれば、子どもたちの自主性を最大限に発揮しながら、継続的な運営が可能なことを実証する。</p> <p>[定量的観点] ◇参加者数 ・本部スタッフ数：総合プロデューサー1名、事務局専属人員1名、会計・総務1名 ・部活動拠点の部員数：46名(中3:4名、中2:23名、中1:19名) ・安全管理スタッフ数：1名(10月～)</p> <p>◇NPO本部⇄部活動拠点の接続 ・5～11月 プロデューサーはじめ大人スタッフが直接部員の前に立っての指導や、副顧問やアドバイザー ・12～3月 Pocca本部(ホール舞台袖の仮本部も含む)⇄Palette拠点をオンライン接続して部活動を実施</p> <p>[定性的観点] 7～8月、教育大学4年生がPalette部員26名に長い時間のインタビューやヒヤリングを実施。そこから得られた部員の言葉から、自主性・主体性・楽しい・自由に好きなことができる・学校を越えたつながりができる・表も裏もいろいろなことにチャレンジできるなど、「自由」「楽しい」を全員が口にすることから、前半期の成果を実証した。 12月、秋の地域芸術祭の各事業への参加を終え、その期間を経ての自身の成長を捉える目的のオンラインワークショップを実施(講師⇄Pocca本部⇄拠点:美感ホール) → 不安を抱えながらも、楽しみをベースに、部活全体で協働しながら事業を終えた後に着実に意識の変容や成長が見られた。</p> <p>[参照映像] 2022/2/24 地域部活カンファレンス&インスペクション2022 https://youtu.be/2tRd3djMdyA ↑↑ 12月オンラインワークショップ報告は、50分2秒～59分44秒</p>

○本事業による成果

◇教員の負担軽減

本事業が直接的に現在の学校の教職員の負担軽減につながることはないが、子どもたちのニーズに沿って、現在学校にないジャンルの活動を実現し、所蔵する部員が増加すること、そして、その拠点が年々市内各地に拡大していくことで、学校部活動が中長期的視点で合同部や拠点校方式への移行促進につながる。

[学校部活動には無く、新たに設けたジャンル数]

約10ジャンル(表現:演劇、ダンス、MC、声優、デジタルアート、制作:脚本、舞台技術、ITプログラミング、衣装制作等)

◇アンケート、ヒヤリングの結果

7~8月に教育大学4年生がPalette部員26名個々にインタビューを実施。

大学生が監修し、メンバー個々の感想の声をまとめた内容を小冊子に編纂。

→ 今後、新1年生の説明会や体験入部等で配布。活動の魅力の周知に活用。

◇学校部活動との関連性について

学校部活動が長時間活動でなく、活動日が少なければ兼部も可能(Paletteでは兼部メンバーは3名)

○児童・生徒への指導に関する工夫

◇生徒自身の満足度

「自分がやりたいことができる」「自由」「楽しい」という感想を大多数の部員が語るほど、満足度が高い。

◇技術指導

技術指導は基本行っていない。すべて独学で調べて学んだり、お互いに教え合ったりが基本。

◇企画プロデュースのポイント

企画したり、制作したり、という観点の考え方や手法について、アドバイザー(オンライン講師)やプロデューサーがアドバイスを行っている。

◇関係するスタッフへの研修等

大人スタッフ(基本は安全管理、見守りのみ)の関わり方についての教材や手引きなどの作成が必要。(次年度の課題)

◇表現技術の向上を目指す生徒への対応

いままで、そういった生徒はいないが、表現技術をさらに高くしたいといったニーズのある生徒がいる場合は、部活動ではなく、習い事や専門の指導者のレッスンを受けることができる教室等を薦める。

○運営上の工夫

◇生徒の自主性を最大限に尊重

現場に関わる大人スタッフは、離れたところで安全面を見守るのみとする。(専門的な技術指導は一切行わない) → 大人がアドバイスをしたり、会話をしたりすることが多くなると、高い確率で生徒は大人の指示待ちの姿勢になることが実証済。自分から考え、周りとの調整して行動するためには、大人は基本活動に介入しないことが重要。

◇活動時間

平日に週2回、一日2時間に限定。土日は年2~3回のみ実施。

◇部員募集

冬頃(小学6年生対象)今春部員募集の案内チラシを全小学校に配布。

4月 入学式直後 中1対象 体験入部の案内チラシを全中学校に配布。

4月中旬から下旬、4回程度、体験入部を実施。

◇保護者との連絡

保護者宛てのメールアドレス宛てに適宜「保護者の皆様」宛ての連絡メールを送信

重要な伝達事項は、通知文書をプリントアウトして配布もしくは郵送

◇プロデューサーの養成

Poccaの地域部活動運営には、プロデューサーの存在が必須。(企画制作を導き、学びの質と地域資源との関わりをもち、活動そのものの地域での価値を高める。そして、運営に必要な人材と資金を調達する。

→次年度以降、現プロデューサーの後継となる、プロデューサー養成が必要。

◇民間企業とのタイアップ等

・活動拠点の使用(共催、利用料金の減免)

・協賛企業1社、次年度以降、さらに大型協賛の交渉を進める。

◇用具、運搬、保管

・必要な機材は活動拠点の中の倉庫を借用して保管(年間4万円程度支払)

◇活動支援・事業運営のためにICT活用

・ICTは、チャットツール(Slack)やGoogle Workspace等を活用

・関係者全員にとって無理のない仕組みの構築

またまだ十分で安定的な資金獲得が難しい状況であることから、一部本部スタッフの業務に負荷がかかっている状況、今後、Pocca本部を支える大型資金基盤を造成し、事務局専属スタッフ体制の整備が必要。

○継続的な運営に関する課題・展望

◇組織との連携

自治体とは十分に連携がとれている。民間企業は主要な1社を中心に今後協賛企業の拡大を目指す。

◇人材確保

派遣の人材センターに発注するなど、業務として関わる人材確保を進める。

◇会費徴収に関して保護者の理解

創部から4年間は無料。5年目が月1000円。2022年度から1500円に増額。2023年度に2000円まで段階的に増額することを保護者に通知。その都度、説明会をひらき、了承を得る形で進行。

◇地域の文化芸術団体

特定の文化芸術団体との連携はとっていない。

◇補助金

2017～2020年＝静岡県文化プログラム、2021年＝アーツカウンシルしずおかより助成(支援)

今後、公共の助成金は申請しない方針。Pocca本部は大企業グループより、部活動拠点(Palette)は地元の主要産業の企業協賛を基本に活動を支える。

◇部費の金額

ホールの使用料、見守りスタッフの人材派遣費用等を鑑み、2022年度の月1500円は妥当。

◇保険(公益財団法人スポーツ安全協会等)への加入

保険への加入は必須。必ず年度始めに加入・徴収。送迎移動中の事故や個人活動も補償にはいるAW区分に加入。

○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・計画

【本部(Pocca)】

- ・オンラインワークショップ、オンデマンド教材の充実
- ・プロデューサーの人材養成
- ・全国規模の大企業グループからの大型資金の協賛体制
- ・全国規模の研究機関や長期研究とのタイアップ(実証、検証の継続)
- ・拠点が円滑な運営が可能になるような各種ツールや資料の作成、支援

【部活動拠点(Palette等)】

- ・見守りスタッフの確保(主催者側の契約スタッフの確保)
- ・できるだけ安価な会場と通信環境(WIFI)の確保

↑ ↑ ↑

本部と部活動拠点のオンライン連携を確かなものとして成立すること、
新中学1年生のみ募集の部活動で、生徒による部活動の自治を実証すること、
本部からの適格かつ有効な支援により、部活動拠点が最小限の人員と資金で活動が継続できることを実証することが重要。そして、その成果を検証し、現場の通常の活動の姿を全国で地域展開を模索している各自治体関係者に視察を促す。

2022年度、Poccaの本部でインターネット放送部が創部。全国への配信拠点として常時機能を開始。

さらに2022年、Palette以外の新しい小規模な部活動拠点を新設。

中学1年生のみで部活動の自治を実現できることを実証することで、Pocca本部と部活動拠点の連携で全国展開可能なことを実証する。

【教員の働き方改革の観点】

Poccaが推進する地域部活動推進事業は、学校部活動にないニーズに沿った新たな受け皿を地域に創出する取り組みのため、この形態の地域部活動が数多く増えていくことと、少子化の進行により、徐々に学校部活動は縮小、合同部や拠点校式に移行していくことになる。その進展が、教員の働き方改革につながると捉えている。

参加者 (予定人数)	【Pocca本部】 事務局スタッフ：週3日 1名 (今後予定人数:大型協賛獲得後、最低3名以上の専属スタッフ体制に増員) 【部活動拠点】 Palette(美感ホール)・・・46名(中学3年:4名、中学2年:23名、中学1年:19名) (以下、令和4年度・予定、部活動拠点が計3箇所に拡大) ・Palette(美感H)・・・約57名(新中学3年:22名、新中学2年:20名、新中学1年:15名) ・掛川南エリア(新設)・・・約5～10名(新中学1年生) ・掛川北西エリア(Pocca本部)・・・約5名(新中学1年生)
-----------------------	---

募集方法	【NPO本部(Pocca)】 ・講師、アドバイザー、会議登壇者、事務局スタッフ ← Poccaプロデューサー推薦 【部活動拠点(Palette)】 ・部員(中学生) … 小6卒業前の冬頃、中1入学直後に募集チラシ配布 (市教育委員会:配布にあたって協力・連携) ・安全管理スタッフ(大人) … シルバー人材センターに派遣依頼(発注)
指導者	【NPO本部(Pocca)】 ・オンラインWS 大学講師1名、エンタメ系プロデューサー1名、劇作家・演出家1名 ・オンデマンド教材出演 作曲家 1名、チームビルディングアドバイザー1名、STEAM教育家 1名 ・検証会議 登壇者 大学教授・名誉教授・講師 計4名 ・総合プロデューサー(Pocca) 1名 ※拠点(Palette)の会場には直接指導者(技術・表現指導)は入らず、すべてオンライン接続でワークショップ等を実施。
移動手段	【部活動拠点(Palette)】 部員自宅⇄会場(美感ホール) 保護者の送迎が大多数、一部 徒歩、自転車も有り
活動費用	【NPO本部(Pocca)】 ・全国発信事業 会場費 等 15万円 ・本部事務局スタッフ(DB管理等)人件費 70万円 69000円/月 1000円/h ・全国発信事業 謝礼(検証会議登壇者等) 14000円/一人 計4名登壇 ・オンライン、オンデマンド教材 講師謝礼 (オンラインWS 4本 8万円、オンデマンド教材撮影 7本 20万円) ・全国発信目的の映像撮影・編集・制作(業者委託 2本 70万円) ・地域部活 発信、資料掲載のためのデザイン(イラスト、図など)制作費 40万円 ・地域部活 発信、資料印刷および映像コンテンツ制作費 40万円 【部活動拠点】 ・拠点会場費(美感ホール等) 80万円 約 7万円/月 ・安全管理スタッフ人件費(派遣) 10月～2月 約 2万2千円 (2700円/一日3h) ・WiFiルーター使用料 1月～ 5000円/月 ※Poccaとdomomoが契約
スケジュール	2021年5月22日 全国発信事業 地域部活プレゼン&パフォーマンス2021(掛川市美感ホール)開催 ～地域部活の在り方のプレゼンと部活動拠点の活動例のパフォーマンス～ ↓↓↓ (2021年度 5月～2022年2月 拠点部活動(Palette)をNPO本部(Pocca)が連携・支援。 ↓↓↓ 2022年2月24日 全国発信事業 地域部活カンファレンス&インスペクシオン2022(オンライン配信) ～実践内容の検証会議と通常部活動[テレブカツ]のZOOM見学会～
保険加入等	スポーツ安全保険 ・中学生 AW 年間1450円 拠点(Palette)全部員46名が加入 (移動中の事故や個人活動の補償も含む、自宅でのテレブカツも含むため) ・大人スタッフ A2 年間800円 常時関わるスタッフ3名が加入

【活動の様子(写真添付)】

◆本部(Pocca)



◆活動拠点(Palette)



⇄
オンライン接続